

『アジア長期経済統計（ASHSTAT）』

一橋大学経済研究所は、1995年から5年間、「汎アジア圏長期経済統計データベースの作成」と題して、文部省（当時）による”COE（center of excellence）形成のための大型科学研究補助金（略称 COE 科研）”に採択され、国内外研究者多数との共同研究を実施した（課題番号 07CE1001）。これを「アジア長期経済統計 [ASHSTAT（Long-term ASian macro-economic Historical STATistics の略）]」プロジェクトと呼ぶ。アジアならびにその周辺のマクロ経済史統計資料が収集できる地域を選び、国民経済計算（System of National Accounts、略称 SNA）の概念枠組みに則った年次時系列加工統計を作成して一般公開するのがその狙いである¹。

狙いは単純明快だが、執行は容易でない。原資料を集め、その精度を吟味するだけでも大変な仕事である。科研費の終了予定時点（2000年3月末）でも、やり残した部分の方が多かった。幸い2003年から5年間、日本学術振興会（学振）のグローバル COE プログラムとして、同上研究所の新規プロジェクト「社会科学の高度統計・実証分析拠点構築（略称 G-COE Hi-Stat）」が採択され、ASHSTAT はその一翼として作業を続行した。ちなみに、同プログラムの採用前や終了後にも、ASHSTAT の構成部分々々に対して、学振から科学研究費の支援を受けたり同研究所から研究資金の提供を受けて裨益したところは大きい。感謝したい。

プロジェクト ASHSTAT の研究成果（推計結果）は、東洋経済新報社出版局の格別のご配慮のもとに、同社から公刊される。以下にその刊行予定を記す。

[ASHSTAT 出版計画の概要]

(I) 監修者

尾高煌之助（一橋大学・法政大学名誉教授）・斎藤 修（一橋大学名誉教授・日本学士院会員）・深尾京司（一橋大学経済研究所特命教授・JETRO アジア経済研究所長）

(II) 巻名および編集者

- 1 台湾： 溝口敏行（一橋大学・広島経済大学名誉教授）
- 2 ベトナム： ジャン・パスカル・バッシノー（リヨン師範学校教授）
- 3 中国： 南 亮進（一橋大学名誉教授）・牧野文夫（法政大学経済学部教授）
- 4 韓国・北朝鮮： 溝口敏行・表 鶴吉（ソウル大学校経済学部名誉教授）・文 浩一（元 一橋大

¹ ASHSTAT プロジェクトの概念的下敷きには、1965年から1988年にかけて出版された、日本本土を対象とする『長期経済統計』全14巻（略称 LTES、大川一司・篠原三代平・梅村又次監修、東洋経済新報社刊行）がある。

学経済研究所特任准教授)

- 5 タイ：末廣 昭（東京大学名誉教授、学習院大学国際学部教授）・三重野文晴（京都大学東南アジア地域研究研究所教授）
- 6 インド・パキスタン・バングラデシュ：清川雪彦（一橋大学名誉教授）・黒崎 卓（一橋大学経済研究所教授）
- 7 インドネシア：ピエール ヴァン・デル・エング（オーストラリア国立大学ビジネス・スクール教授）
- 8 ロシア：久保庭眞彰（一橋大学名誉教授）・雲 和広（一橋大学経済研究所教授）・志田仁完（西南学院大学経済学部准教授）
- 9 エジプト・トルコ：加藤 博（一橋大学名誉教授）・後藤 晃（神奈川大学名誉教授）
- 10 フィリピン：永野善子（神奈川大学名誉教授）・尾高煌之助
- 11 中央アジア：西村可明（一橋大学名誉教授）・岩崎一郎（一橋大学経済研究所教授）・杉浦史和（帝京大学経済学部教授）
- 12 日本：尾高煌之助・斎藤 修・深尾京司

(III) 各巻の内容構成（予定；*印は推計可能の場合のみ）

- 【1】統計制度
- 【2】人口と労働力
- 【3】農林漁業の名目ならびに実質生産高
- 【4】鉱工業の名目ならびに実質生産高
- 【5】建築業、運輸通信業、電気・ガス・水道業の名目ならびに実質生産高
- 【6】商業、不動産、その他サービス産業の名目ならびに実質生産高
- 【7】金融：通貨残高、GDP デフレーター、卸売ならびに小売物価、消費者物価指数、賃金、利子、外国為替相場
- 【8】*個人消費支出
- 【9】*財政収支
- 【10】*資本形成と*資本ストック
- 【11】対外貿易および国際収支
- 【12】実質ならびに名目総国内生産（GDP）と*総国内支出（GDE）
- 【13】各章ごとの英文梗概
- 【14】付属統計表、ならびに CD-ROM 収録の統計表一式と参考資料

(IV) 対象期間

主要系列の場合は、原則として独立から 21 世紀初頭までを網羅する年次系列。欠損値はできるかぎり補充し、補充方法を解説する。ただし、参考系列の場合は、必ずしも全期間を網羅しない。

(V) 付録 CD-ROM

主要な推計結果とその他の参考系列とを付属 CD-ROM に納める。

(VI) 統計情報の公開

推計の主要結果は、著作権・出版権上の制限題がなければ、原則として公刊二年後にインターネット上に公開する。

(VII) 原資料ならびにワークシートの保存

原資料と推計ワークシートとは可能なかぎり一橋大学経済研究所資料室に収納して、将来の統計系列の改定等に備える。

(以上)